

「つばさ南小学校」並びに「つばさ北小学校」の校歌(案)に関するアンケート結果

1 校歌(案)が方針に沿っていると感じた場合、どのような点が方針に沿った表現になっていると感じたか？

No.	方針	感想 内容【校歌(案)が方針に沿っていると感じた場合】
(1)	前向きになれ、夢が持て、また元気が出るような歌であること。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いていて夢が持てるような曲だと感じた。 ・「夢にはばたけ」「希望の空へ」という箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・歌詞の最初の一節「夢に羽ばたけ つばさ南(北)小」の入り方がよいと感じた。 ・「友よ夢を語ろう」の歌詞から、「子どもたちに将来の夢をしっかり描いてもらいたい」という強い意思が伝わってくる。 ・「夢にはばたけ」の歌詞から、小学校の毎日は人生の夢を叶えるための大切な期間で、「夢」に向かい邁進する子どもたちを鼓舞する思いが伝わってくる。 ・「いつかここに集い 今日の日を笑おう」という箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・曲が持つ雰囲気は良いと思う。 ・「夢に羽ばたけ」とか「希望の空へ」等は、前向きな言葉でよいと思う。 ・「夢に羽ばたけ」「いつかここに集い 今日の日を笑おう」の箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・歌の出だしは、インパクトがあると思います。 ・「夢に羽ばたけ」の箇所が、良いと思います。
(2)	校名の理由・由来を反映すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞のテーマとして「つばさ」を採用しており、内容から世界へ、未来へ、夢へとつなげられる点が感心した。 ・歌詞のうち「長い旅を終えたコハクチョウのように」のフレーズが、まさに校名に結びついている。 ・校名の由来を斬新な校歌スタイルと未来志向の作詞に反映させており、極めて意欲的な校歌に仕上がっている。 ・サブタイトルの「心のつばさ広げて」は、まさしく校名の由来を反映していると思う。 ・歌い出しのフレーズに「つばさ」が入っているところが、校名の由来を反映していると思う。 ・「共に歌を 心のつばさ広げて」の箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「夢に羽ばたけ」「明日へ羽ばたけ」「つばさを広げて」のフレーズに、特に方針に沿っていると感じた。 ・「心のつばさ広げて」のサブタイトルが、校名の由来を反映していると思います。
(3)	若い感性を取り入れた歌であること。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業した後も、校歌について話題にできるほど、斬新さを感じた。 ・若い人たちに受け入れられるフレーズが多い。例)「いつも笑顔」「希望の空へ」「心のつばさ」「夢に羽ばたけ」など ・校歌を歌うことが子供たちの心の支えになったり、人生の目標になったりするような、歌謡曲的な要素を随所に取り入れた若い感性の仕上がりにある。 ・実際に歌を聴いた雰囲気から、メロディ、歌詞とも、今までの校歌より新しさを感じた。 ・校歌で最初から主題で始まっているところは、古い感性の者では発想できない歌であり、興味深い。 ・校歌のイメージを変える新しさがある。 ・1番、2番、3番という作りになっていないところが、若い感性を取り入れた歌と思う。 ・今までの校歌の定型にとらわれない自由な構造だと思います。 ・「愛が守ってきた川島」の箇所が、若い感性を取り入れていると思います。 ・言葉はシンプルで抽象的なので、低学年に向いていると思いました。
(4)	歌詞、音域、リズムについて歌いやすいものであること。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌いられるまでは少し時間を要するかもしれないが、覚えれば口ずさめる歌だと思う。 ・自分で何度か歌ってみたが、テンポもよく歌いやすい。 ・校歌特有のリフレインを意識しつつも子どもの感性を鼓舞するような歌調のため、若干歌いだしの音程に戸惑うことも考えられるが、歌詞からの情景が伝わるため覚えやすいのではないかと。 ・今時の歌の雰囲気だと思うので、子供たちにとって歌いやすいと思う。 ・歌詞の意味は、児童にも分かりやすい。 ・伴奏者の表現力(抑揚など)が試されるやりのある曲である。 ・きれいなメロディーだと思いました。 ・歌詞は分かりやすいと思います。覚えやすいリズムだと思います。 ・ゆったりとしたリズムで歌いやすいと思います。 ・同じリズムを繰り返している。
(5)	児童(子供たち)の心にうったえることができるだけでなく、学校と地域(大人)の一体感の醸成を図ることができるもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちだけでなく、保護者、地域の方々にも、受け入れてもらえる歌だと思う。 ・「堤と皆の愛が守ってきた川島」という箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「堤と皆の愛が守ってきた川島」「長い旅を終えたコハクチョウのように」のフレーズは、感動を与える。 ・町民憲章にも、「1 かわじまを守る堤は こころのきずな」、「1 かわじまの宝だ 伸ばせ子どもたち」とあり、歌詞にも川島を印象づける「蒼い地平線」、「川」、「山々」、「田畑」と地域の情景がしっかりと織り交ぜられている。また、この地域がしっかりと子どもたちを育てていくんだという、地域の一体感を醸し出す作詞である。 ・子どもたちが「かわじま」から巣立ち大成しても、心の中に「かわじま」をいつも思ってもらいたいという真情が「こはくちょうと」、「いつかここに集い」のなかで印象深く表現されており、地域を思いを込めた心強い校歌に仕上がっている。 ・歌詞のうち「田畑は実り 大地豊かな宝島」の箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「堤と愛が守った川島」は、とても良い歌詞です。児童にはいつまでも川島を愛せる人になってほしい。 ・「空の色を映す川は今日も流れ」の箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「堤と皆の愛が守ってきた川島」という箇所が、特に方針に沿っていると感じた。
(6)	川島町及びその地域がイメージでき、親しみやすく、歌い継がれるものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞・曲とも素敵な歌だと思う。 ・「コハクチョウ」という箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「長い旅を終えたコハクチョウのように」「田畑は実り 大地豊かな宝島」のフレーズは、川島のイメージに合っている。 ・町民憲章にも、「1 かわじまを守る堤は こころのきずな」、「1 かわじまの宝だ 伸ばせ子どもたち」とあり、歌詞にも川島を印象づける「蒼い地平線」、「川」、「山々」、「田畑」と地域の情景がしっかりと織り交ぜられている。また、この地域がしっかりと子どもたちを育てていくんだという、地域の一体感を醸し出す作詞である。 ・「地平線の果てに立つ山々」「堤と皆の愛が守ってきた川島」という箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「田畑は実り 大地豊かな宝島」の箇所が、特に方針に沿っていると思った。 ・大切に歌うことで、郷土や母校への思いが育めると思う。 ・「蒼い地平線の果てに立つ山々」「田畑は実り 大地豊かな」の箇所が、特に方針に沿っていると感じた。 ・「蒼い地平線の果てに立つ山々」の箇所が、地域をイメージできる。

2 校歌(案)が方針に沿わないと感じた場合、どのような点でそう感じたか？

感想 内容【校歌(案)が方針に沿わないと感じた場合】	
■教育委員	
【歌詞、フレーズの観点】	・「宝島」でなく「宝の島」のほうが軟らかい表現だと思う。
■音楽主任	
【歌いやすさの観点】	・小学生にとっては全体的に音が低いと思う。2度か3度音を上げないと特に低学年の児童が歌いづらいと思う。 ・「夢に羽ばたけ つばさ南(北)小」の箇所は、旋律が盛り上がるが、それ以降1オクターブ下りて低い声で歌うのは、難しいと感じた。 ・歌い上げる(盛り上げる)部分がほしい。 ・メロディーで歌いにくい箇所があります。「語ろう 風に」 ・明るい調にしてほしいと思いました。 ・テンポがゆっくり過ぎる。元気なイメージはない。
【歌詞、フレーズの観点】	・「宝島」ではなく「川島」でもよいのではないか。 ・「堤と皆の愛」は言葉として並列するものでないと思う。 ・「いつかここに集い 今日の日を笑おう」の箇所について、将来のことより現在のことを歌詞にしたほうがよい。 ・「コハクチョウ」は、町の東地域では、あまり馴染みがない。 ・「今日の日を笑おう」という箇所は、少し気になる。 ・「堤と皆の愛」のフレーズの「愛」は、別の言葉が良い。
■校長	
【歌いやすさの観点】	・音がとても低いのですが、子供が歌いやすい音域になるのでしょうか。
【歌詞、フレーズの観点】	・「愛」の表現は、小学生にはどうか。 ・「田畑」は「実」らないのではないか。「稲穂実り」では。
【その他】	・1番2番と区切りがある校歌がよいと思う。 ・楽譜があると良かった。